

## はじめに

東日本大震災で犠牲になられた方々に哀悼の意を表しますとともに、大震災及び福島第一原発事故の被災者の方々に心からのお見舞いを申し上げます。

平成23年3月11日の大震災、それに伴う原発事故から早くも2年が経ちましたが、今なお5,500人を超える方々が、浜通りなどの市町村から会津地方に避難し、仮設住宅や借り上げ住宅等での生活を余儀なくされている状況です。

会津地方でも、大震災による建物の倒壊、道路の隆起や陥没、会津のシンボルである鶴ヶ城本丸跡の石垣が崩落するなどの被害がありました。

会津保健福祉事務所では、大震災のあったあの日から被ばくスクリーニング検査や避難所巡回診療、健康調査など、日に日に増え続ける避難者の方々への対応に追われる毎日でした。地元の医療・福祉関係者や、全国各地から駆けつけていただいた災害医療チーム、避難所の運営を支えていただいたホテル、旅館等の方々、さらに多くのボランティアのお力がなければ何一つとしてできなかったであろうと、今更ながら御尽力いただいた皆様には感謝の気持ちで一杯です。どうもありがとうございました。

福島県は、「新生ふくしま」を築くため、復興に向けた歩みを進めています。会津地方においても大震災以降に激減した観光客、修学旅行生なども日ごとに増えてきており、NHK大河ドラマ「八重の桜」の舞台でもある会津の歴史、文化を踏まえて、“復興の灯りは会津から”の気概を持って復興に取り組んでいます。

当所では、避難者の方々の健康管理のため家庭訪問等を行っていますが、一日も早く避難者の方々がふる里に戻ることができ、誰も環境放射線量を気にしなくてよくなる日がくることを切望してやみません。

この報告書は、会津地域において、大震災のあった平成23年3月から平成24年3月までを中心に、保健、医療、福祉、衛生等の各分野でどのような活動を行ったかをまとめたものです。災害時対応の参考としてご覧いただけましたら幸いです。

報告書作成に当たり、貴重な資料や写真等を提供いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

平成25年3月

福島県会津保健福祉事務所長 西田茂樹

